

軽音楽クラブ部史〈3〉

カントリーの歴史

久下 昌洋(S42年卒/W)

昭和34年の秋、斉藤秀昭が軽音楽クラブへ入部し、当時ワイアンに在籍していた原田純一、片岡増博と3人で細々とカントリーの練習を始めたのがそも

その始まりで、その頃法政大学カントリーレンジヤースでパンパスをされていた御園氏に指導を受けたりしながら、翌35年4月にカントリーキーベースが産声をあげた。この年、文村貴一、鳥居正明、石津(故人)等が入部し、カントリーの新約聖書といわれていたハンク・ウィリアムスのナンバーを中心にバンド活動が始まった。

平成9年(1997年) 9月1日発行

36年には、柴田信重、田村駿、川野武一、斉藤真が入部しナンバーの層は厚くなったが、片岡、石津の両氏が六大学のピックアップメンバーで「カントリーフレッシュメン」を結成し別に活動を始める。残った面々でカントリーキーベースの固定メンバーが確定した。またこの年バンドのオープニングテーマにスピーディ・ウエスト、ジミー・ブライアント競演の名

曲「カントリーキーベース」を採用した。また、演奏ナンバーもウエストンスウィングが中心になり始めたのもこの頃である。

37年に荻原昭、竹中祐史、小池豊(故人)の他、女性(土屋、河野、鈴木等)も入部し、ますますメンバー層は厚く

なりシニアバンドができるまでになった。この頃の演奏活動は、定演、演奏旅行の他、ちよつと変わった仕事では、当時世を風靡していた石津謙介氏(VANジャケット)のファッションショー(白木屋・現・東急日本橋店)や、大関玉ノ海の断髮式(国技館)等があった。

バンドの司会は初代が原田、そして鳥居、竹中と歴代ベースマンが担当し、日本カントリー界の大先輩であるいかりや長介氏やジャイアント吉田氏を目標に、痴性と強要を売り物にし、またこれは代を迫うことにエスカレートして学生バンド界に話題を提供した。



昭和39年、有楽町ビデオ・ホール/東京グランドオールオープリー/竹中祐史(S41卒)(b)、萩原昭(S41卒)(st-g)、北島俊次(S42卒)(e-g)、久下昌洋(S42卒)(ds)、田村駿(S40卒)(vo)、小池豊(S41卒)(vo)



昭和40年、お茶の水・日仏会館ホール/CSWフェスティバル/竹中祐史(b)、北島俊次(g)、久下昌洋(ds)、萩原昭(st-g)、小島久光(S42卒)(vo,中央)、村田兵衛(S43卒)(vo)、岩田和裕(S43卒)(vo)

特に竹中は軽妙なおしゃべりで、TBSラジオの「大学対抗バンド合戦」を湧かせ、同会の大橋巨泉氏にスカウトされかけたが、「富山なまり」が災いし、本人は芸能界進出を深をのんであきらめたのである。

しかし、カントリーキーベースはコミックバンドで有名になった訳ではなく、38年入部の久下昌洋、北島俊次、小池久光がレギュラーになった39年頃から演奏ナンバーは当時アメリカで大ヒット中のレイ・チャールズ、バック・オウエンズ、ジョージ・ジューシス等の曲が中心となり、萩原のベタルスティール、林聖、猪の短

さまで寺内タケシ氏そっくりの北島のエレキ早弾き、発音はデタラメでもとにかく着山の歌詞を覚えるのが早かった小池等が産物で、大学カントリー界のトランプに立ちカントリーキーベースの黄金時代がスタートしたのである。

しかし、ここまでに至る過程で柴田信重の存在を忘れることはできない。38年に鳥居がクラブの副幹事長として上原幹事長を補佐し、クラブ全体の運営に参画することとなり、バンドの運営は当時3年生の柴田が担当することとなった。彼は同級生も恐れをなす鬼コーチとなり、作者も練習時間

第8回軽音楽クラブ定演(昭和39年?) / 斎藤真(S40卒)(e-g)、柴田信重(S40卒)(st-g)、久下昌洋(ds)、萩原昭(st-g)、川野誠一(S40卒)(vo.中央)、小池豊(vo)、田村駿(vo)、竹中祐史(b) (写真には写っていない)



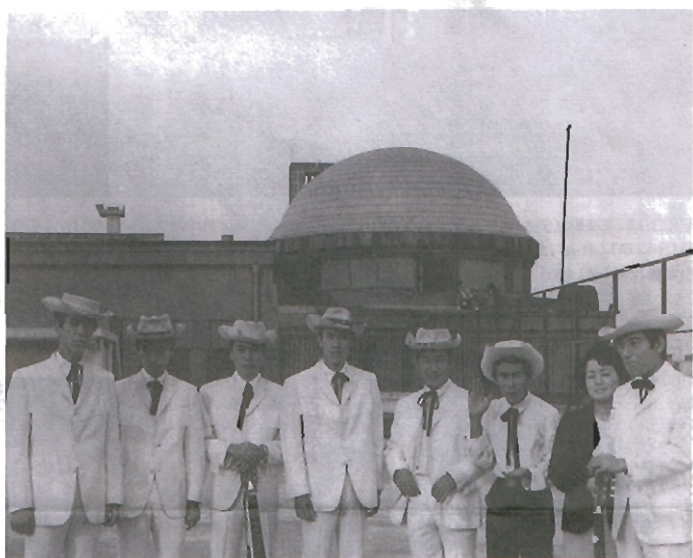
第5号が終わってからもマンツーマンでブラシ片手に個人ソックを受け、閉口したものである。とにかく柴田のこの指導力が、カントリーキーバースをただヒット曲を追いかけるだけの人がバンドではなしに、音楽的にもしっかりと基礎のできた、名実ともに大学ソコのカントリーバンドに仕上げたことは、間違いない事実である。

滅し、「キーバース」の名前はけが成り、カントリーミュージックとは違う世界の音楽をやっているのは、時代の流れとはいえ、寂しい限りである。

学生バンド界からカントリーバンドが次々と消えてゆき、本場アメリカでは今も続いているカントリーミュージックの隆盛と考え合わせると、何とも複雑な想いがするのである。

敬称略

この記にあたり、斎藤秀昭、鳥居正明両先輩より、書ききれない程、現役当時の貴重なお話を聞かせていただいた。



昭和39年、記念館屋上にて / (左から) 竹中祐史、萩原昭、久下昌洋、田村駿、北島俊次、野村昌弘(S41卒)、鈴木和加子(S41卒)、小池豊

印章・ゴム印・名刺・印刷

判子屋98

代表 永山祐輔

(46年卒/BSSO)

〒111 東京都台東区蔵前1-8-3 オザワビル1F
TEL03-3864-0315 FAX03-3864-0302

(有)上原商店

代表取締役

上原孝夫

(39年卒/OX-BS)

東京都新宿区百人町2-21-3 TEL.03-3361-2055